

登録ヘルパーの労働供給と 希望労働時間のミスマッチ

岸田 研作、谷垣 静子

【目的】近年、介護労働者の不足が深刻になっている。本稿の目的は、登録ヘルパーの実労働時間と希望労働時間のミスマッチを解消する方法を明らかにすることである。訪問介護は代表的な居宅介護サービスであるが、従事者の8割以上が登録ヘルパーである。登録ヘルパーは、事業所に就労希望日時を伝え、希望に合致する日時に利用者から訪問介護の派遣依頼があった場合に働く。したがって、登録ヘルパーの就労希望と利用者の訪問介護の派遣依頼のマッチングがうまくいかない場合、登録ヘルパーは、労働意欲があっても仕事に従事することができない。

【方法】データは、筆者らの独自調査である。分析対象となったのは1,302人の登録ヘルパーである。回帰分析により、サービス提供責任者の雇用管理能力が、労働時間ギャップ(希望労働時間-実労働時間)、労働時間の満足度に与える影響を調べた。サービス提供責任者は、訪問介護員の雇用管理を担う役職で、厚生労働省により設置が義務付けられている。

【結果】調査対象者の約3割が「もっと働きたい」と回答した。サービス提供責任者の雇用管理能力が高いほど、労働時間ギャップが減少し、労働時間の満足度が高くなった。

【考察】サービス提供責任者の雇用管理能力を向上させる施策は、登録ヘルパーの労働供給を効率化すると考えられる。